

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691600114		
法人名	株式会社 康生会		
事業所名	グループホーム三愛の里うつね(2F)		
所在地	〒621-0801 京都府亀岡市宇津根町土井ノ内48番地1		
自己評価作成日	令和3年1月7日	評価結果市町村受理日	令和3年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kohyou_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=2691600114-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和3年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ○職員間で情報が共有できるように、職員個々での情報発信を心掛けている。(チームケアの強化) ○利用者主体のケアができるよう利用者の行動に意味を持って考えるようにしている。 ○利用者の自立支援及び機能維持のため、出来る範囲での作業を依頼するよう心掛けている(家庭菜園での収穫、洗濯物干し・畳み、食器洗い、掃除など) ○OJTやOffJTを積極的に行い、職員のスキルアップを図っている。 ○チームケア向上のため、ユニットテーマを決め、それを目標に日々のケアを行うよう心掛けている。 ○気付きを大切にし、その気付きをケアに生かすようにしている。(目配り、気配り、心配り)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1Fに同じ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所内に掲示し、職員が意識できるよう努め、毎日月曜日の申し送り時に唱和し、周知するようにしている。 ・2ユニットが理念を基にしたユニットテーマを掲げ、職員が共通認識を持つようにしている。ユニットテーマも理念同様、事業所内に掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・買い物や訪問理容、行事での食事などで地域の店舗を利用している。 ・外部ボランティアに依頼し、施設内で催しを実施している(将棋・寸劇・歌など) ・地域の保育園との交流、地域行事の参加(とんど祭りなど)を行っている ※今年度は新型コロナウイルスの影響により、訪問、外出での地域との関りはできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・事業所見学の際に、認知症の方が利用できる介護サービスの説明を行っている。 ・相談があった場合は、出来る限り分かりやすく説明を行うよう心掛けている。 ※今年度は新型コロナウイルスの影響により施設見学は実施していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議で出された意見をサービス向上に活かし、より良い方向へ進めるよう心掛けている。 ※今年度は新型コロナウイルスの影響で書面開催を行う。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議等で報告、相談し、協力関係を築けるように努めている。		

京都府 グループホーム三愛の里うつね(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束の現状について年4回会議を行っている。 ・利用者に納得のいく説明や声掛けの工夫によってスピーチロック防止に努めている。 ・身体拘束廃止研修を定期的に行い、職員に対して教育を行っている。 ・新任職員に対しては入職時に身体拘束の基本的な説明を行っている。 		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスや事業所内研修等で話し合うとともに注意喚起を行っている。 ・職員間で気付いたことは報告、連絡、相談を行い、見過ごすことのないよう努めている。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTでは実施に至っていないが、外部研修で学ぶ機会を設けている。 ※今年度はコロナウイルスの影響により外部研修には参加できず。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時にはできるだけ分かりやすい説明を心掛け、理解と納得をしていただけるように努めている。 ・理解して頂いたことを確認しながら説明を行っている。 ・説明が不十分と思われる点については改善を図っている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関先に意見箱を設置し、いつでもどなたでも意見を伝えていただけるような環境整備に努めている。 ・家族会や運営推進会議等での意見交換や情報収集したことを運営に反映させている。 ※今年度は新型コロナウイルスの影響により家族会、運営推進会議は開催できず。 		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月運営会議を開催し、意見や提案を積極的に行い、運営に反映させている。 ・職員会議(ユニット会議)を毎月開催し、職員の意見や提案を聴く機会を設け、全体で共有し、日々の業務に反映させている。 		

京都府 グループホーム三愛の里うつね(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な資格や経験等、常に職員個々がチャレンジしやすい環境・条件の整備に心掛けている。 ・社員評価制度を導入し、職員の取組み姿勢を確認するようにしている。 ・研修や資格取得については積極的に取り組めるよう支援している。 ・希望休の確認や勤務調整、有給所得ををできるだけ希望通りに行っている。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・業務で役割分担を行い、自身が責任を持って業務にあたる機会を設けている。 ・職員個々をアセスメントし、個性や力量を把握したうえで指導していくよう心掛けている。 ・エルダー制を導入し、より個別に指導できるよう努めている。 ・スーパービジョンを取り入れ、職員の主体性を育てるようにしている。 ・事業部内研修、外部研修への参加機会を設けている。(コロナ禍により外部研修は参加できず) ・個々の能力に応じたスキルアップが図れるように努めている。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム協会、グループホーム連絡会に加入し、その他の同業者間で行う研修や交流会、催しには積極的に参加するようにし、情報収集やサービスの質の向上に努めている。 ※今年度は新型コロナウイルスの影響により参加できず。 		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の会話の中で不安なことや困っていることなどはないか、寄り添い話を聴くように心掛けている。 ・本人にとって安心して暮らせる環境作りや関係づくりに努めている。 		

京都府 グループホーム三愛の里うつね(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・これまでの本人の様子や暮らし方、また困っていることや不安なことを聴き、今後のケアに活かすように努めている。 ・家族が相談しやすいような関係性を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族が面会に来た際に、今求めていることを聴き、職員間で共有し、対応できるよう努めている。 ・「24時間シート」を活用し、本人の生活状況を把握することで必要な支援内容を模索している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家族のような温かい雰囲気、関係性を大切にしながらコミュニケーションを取るよう心掛けている。 ・本人の意向を汲み取り、ケアに生かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・日頃の様子を月1回の生活状況連絡書で伝え、何か課題がある時や家族の支援が必要であれば協力していただき、共に本人を支えられるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会、外出、外泊などで馴染みの人や場所と関りが持てるように努めている。(コロナ禍の為実施できず) ・本人や家族から馴染みの人や場所を聞き取るようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・レクリエーションや日常の会話を中心に他利用者との交流が深められるよう努めている。 ・2ユニット合同で開催する行事を設け、他ユニットの利用者とも交流が図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約終了後も必要であれば、本人や家族の要望に応じ、支援できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の趣味嗜好に合った、水分や食事の提供に努めている。 ・日々、本人の希望や意向を聞き取り、それをケアに活かすように努めている。 ・日々の暮らしや本人の性格などを把握した上で本人のニーズを考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前のアセスメントを確認し、必要であれば家族からも話を聞くなどして状況把握に努める。 ・「その人らしさのアセスメントシート」を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの過ごし方や現状については、朝夕の申し送りや記録等、看護師も交えて職員全員が把握するようにしている。 ・体調変化や状態変化は個別の記録表を作成し、状況と変化を把握するよう努めている。 ・日々の挨拶や関りの中で状態の変化に気付けるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月1回のカンファレンスやユニット会議での意見(家族の意向も踏まえて)を計画作成に反映させている。 ・ユニット会議には多職種が出席し、利用者の状況の共有を図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・特記事項は必ず業務日誌に記載するようにしている。 ・職員間の連絡手段として、連絡ノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・職員間や家族と密に連絡を取り合い、柔軟かつ迅速な対応ができるように努めている。 ・家族の思いや職員の気付きを基に発想豊かな対応ができるよう努めている。		

京都府 グループホーム三愛の里うつね(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・一人ひとりが安全で楽しい生活が送れるようボランティア等の地域資源を活用しながら支援を行っている。 ※新型コロナウイルスの影響により実施できず。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月2回の訪問診療を基本として健康管理を行っている。 ・本人、家族の要望に沿った医療の提供ができるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・申し送りや会議、カンファレンズに参加してもらうことで利用者の状況を共有している。 ・利用者に異変があれば、都度伝えるように心掛けている。 ・介護業務に携わってもらい、利用者の状況が把握しやすいよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・施設、病院、家族と連携を取り、利用者が安心かつ適切な治療を受けられるとともに、早期退院に向けての情報交換及び情報共有に努めている。 ・退院カンファレンスでは積極的な意見交換を行い、また施設での生活に対する理解を求めることで、退院後も本人が安全、安心に暮らせるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・終末期医療や看取り介護に関しては、家族に対して事前に説明と確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・日々の体調管理に努めながら、OJTや外部研修(救命講習等)の機会を設け、急変時に対応できる力を身に付けるよう心掛けている。 ※今年度は新型コロナウイルスの影響により参加できず。		

京都府 グループホーム三愛の里うつね(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の避難訓練を消防署員指導の下、職員、利用者が参加して行っている。夜間想定訓練も行っている。 ・事業所の立地から水害の危険性が高い為、水害対策については特に力を入れている。 ・自然災害での迅速な対応の為、防災メールの登録を全職員が行うよう努めている。 		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーに配慮した対応を心掛けており、居室訪問時にはノックもしくは声掛けを行うようにしている。 ・誇りやプライバシーに配慮し、自尊心を傷つけないよう、一人ひとりに合わせた声掛けを行うよう心掛けている。 ・共同生活であることを念頭に置き、他利用者との関りでプライバシーを損ねたり、自尊心が傷つけられるようなことがないように努めている。 		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・少しの事でも選択肢を設けたり、目で見て選んでいただくなど、自己決定できるよう支援している。 ・日常の会話の中で、本人の意向を伺い、できるだけそれに応えるようにしている。 また、思いを汲み取ることに努めている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な一日の流れを基本として、その中で一人ひとりの生活リズムを尊重し、その人らしいその人の望む暮らしに近づけられるよう支援している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問理容で本人の希望を聞くようにしている。 ・好みの柄や色、季節に合った服装が選べるよう見守り、支援している。 ・身だしなみや整髪などは出来る限り、本人にしてもらっている。介助の必要な方については職員が行っている。 		

京都府 グループホーム三愛の里うつね(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の献立には本人の嗜好を考え、季節に合わせたメニュー作りを行い、利用者と一緒に食事を摂り、会話を意識し、楽しい時間となるよう心掛けている。 ・誕生日などの行事食の際には本人の希望を確認し、提供している。 ・その人ができる範囲で食事の準備や後片付けを職員と共に行っている。 ・食事中は音楽をかけてリラックスできるようにしている。 		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事量等を個人に合わせて提供し、栄養バランスを考慮するとともに、食器類にも気を配り、盛り付けの工夫を行っている。 ・水分、食事量を記録し、摂取量の把握に努めている。 ・水分摂取の機会を増やし、小まめな水分補給に努めている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアを習慣とし、職員が声掛け、見守りをして毎食後実施し、清潔保持、誤嚥性肺炎防止に努めている。 		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・おむつの使用量を減少できるように職員間で検討しながら行っている。 ・個別排泄表を活用し、一人ひとりの排泄リズムを把握し、統一した支援が行えるよう努めている。状態が変化した場合は適時表を更新している。 		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・排便チェック表を用いて、排便の有無を確認し、個々の排便リズムを把握や定期的に排便ができるよう一人ひとりに応じた支援を行っている。 ・便秘予防、排便促進の為、食事や水分管理を行い、レクリエーション等で体を動かしたり、腹部マッサージを行っている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の体調や希望を優先し、入浴できるようにしている。 ・入浴を拒む利用者については、無理強いせず、日や時間をずらすなど希望に沿って支援をしている。 ・入浴剤を一緒に選んだり、昔の話を聴く等、楽しんで入浴してもらえるよう心掛けている。 		

京都府 グループホーム三愛の里うつね(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・安心して気持ち良く眠れる環境作りや、本人の体調や習慣、状況に応じて休んでいただけるよう心掛けている。 ・室温や湿度、寝具交換(10日に1回は定期交換)に気を配るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・医療情報や薬剤情報を確認し、変更がある場合は申し送りや連絡ノートに記載し、職員全員が把握するようにしている。 ・服薬時は職員間でダブルチェックを行い、誤薬や飲み忘れのないように努めている。 ・服薬確認シートを活用し、確認がしやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・本人ができること、できないことを把握し、職員と関りながら、洗濯物干しやお盆拭き、掃除を行えるよう支援している。 ・天気が良く暖かい日は、ベランダに出て日光浴をし、気分転換を行っている。 ・ユニット間で行き来することで気分転換が図れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・定期的(隔月)に外食会を実施している。 ・花見や紅葉狩り、コスモス園など季節を感じられるような外出の支援を行っている。 ・本人の希望に沿って買い物支援を行っている。 ・通院などで出掛ける際は買い物に寄ったり、ドライブを楽しんでもらっている。 ※今年度は新型コロナウイルスの影響により外食、買い物は実施できず。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・希望に応じて本人管理のお金で買い物支援を行っている。 ※今年度は新型コロナウイルスの影響により買い物は実施できず。		

京都府 グループホーム三愛の里うつね(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙のやり取りをされている利用者に関しては必要に応じて職員が間に入り、支援している。 ・自身で電話を掛けるのが難しい方で、電話をして欲しいと要望がある場合は、希望に添えるように支援している。 ・電話では会話が難しい方も顔を見ることで安心できるようビデオ通話を利用している。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・共有スペースには季節ごとの作品や写真を展示している。 ・温湿度計や空気清浄機、加湿器などを設置し、居心地のいい空間作りに努めている。 ・雑誌や新聞を並べて配置し、いつでも自由に見ることができるようにしている。 		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・共有スペースにはソファを設置し、廊下には一人でゆっくり座れる椅子を設置している。 ・エントランスにはベンチを置き、少し離れた所でくつろげるような場所を提供している。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅で使用していた家具などを自宅同様に設置するなどしている。 ・家族写真や自身の作品や誕生日プレゼント等を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。 ・本人の生活パターンや動線に基づいて、家具やベッドの配置を考え、より過ごしやす居住空間になるように工夫している。 		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・居室の扉に名前プレートを貼り、本人が確認しやすいようにしている。個々に応じてネームプレートは工夫している。 ・利用者一人ひとりに応じて、安全に自立した生活が送れるよう家具の配置を考え、車椅子やシルバーカーの置き場にも配慮している。 ・ベッドの高さを自身で立ち座りがしやすいよう調節している。 		